

神谷神社

神谷神社には、1930 年に再建された鮮やかな赤色の拝殿があります。その後ろにある小さめの木造建築である本殿は、日本に現存する最も古い神社建築の一つです。装飾はありませんが、これは歴史的に重要な建築物です。大正時代（1912–1926）に修繕が行われると、この建物の歴史を示すいくつかの棟札が見つかったのです。実施された修繕や再建工事の時期と状況が書かれたそれら棟札の中でも最古の札から、現在の本殿は 1219 年に建造されたことが明らかになりました。建物には天然石の土台が用いられ、何層もの檜皮で覆われた曲線状の屋根が前面の木造階段上に張り出しています。張り出した屋根を支えているのは 4 つの四角い柱です。鎌倉時代（1185–1333）に典型的だったこれらの建築様式が一因となり、本殿は 1955 年、国宝に指定されました。ですが本殿独自の記録には 812 年に建造されたことが記されており、神社そのものには、さらに古い歴史があると考えられています。また、神道の守護神である随神を表した鎌倉時代の像など、限られた機会にしか展示されないものの、神社には歴史的文書やその他の遺物が所蔵されています。この神社があるのは、高松市と坂出市の間、五色台の 5 つの山の 1 つである白峰山のすぐ側の、神谷川の川岸近くです。